



畑に水がくる ということ

肝属中部地区畑地かんがい事業は、昭和44年予備調査開始、平成元年実施計画が採択、平成9年工事着工し、そして平成28年一部地域から通水が始まる予定です。

これまで

現在の畑作は、水を安定的に必要な野菜を栽培しようにも、雨水や湧き水だけをたよりに栽培を行なう必要があるため、結果的に落花生やサツマイモなど乾燥に強い作物が栽培されています。

主食として栽培されている「米の文化」に対し、副菜である「野菜・果樹」は消費者ニーズに左右されます。さらに高付加価値を高める産地化（銘柄確立）が難しい事や、初期投資の費用がかかる施設野菜への転換の保障もないことなどを理由に、作付作物が